

上関地点 平成24年度第2四半期の環境監視調査結果について

平成24年7月～9月までの調査の結果は、大気質の浮遊粒子状物質の1時間値を除いて、すべて環境基準や管理目標値などを満足している。また、陸生・海生生物については、過去の調査結果と比較しても顕著な変化は見られていない。

項目		調査時期	調査結果概要		
大気質		7月～9月 (連続測定)	<p>二酸化硫黄、二酸化窒素は環境基準を適合していた。 浮遊粒子状物質は7/16,22に1時間ほど計画地外の観測地点で環境基準を超過した。原因は不明だが、計画地内の観測地点では環境基準を大きく下回っており、また工事は一時中断していることから、工事の影響ではないと考える。</p> <p>【調査期間中の各最大値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二酸化硫黄:0.004ppm(日平均値), 0.011ppm(1時間値) ・二酸化窒素:0.013ppm(日平均値) ・浮遊粒子状物質:0.064mg/m³(日平均値), 0.238mg/m³(1時間値) 		
騒音・振動		7月11日 8月8日 9月19日	<p>管理目標値内であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・騒音最大値:74dB ・振動最大値:30dB未満(振動レベル計の測定下限値) 		
水質	海水の濁り	—	期間中、海域工事は実施していないため、測定を実施していない。		
	陸域工事排水の水質	7月5日 8月7日 9月7日	<p>管理目標値内であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水素イオン濃度:6.8～7.2 ・浮遊物質濃度:2～6mg/L 		
陸生生物	ハヤブサ	7月24日 8月28日 9月11日	鼻線島において、7・8月に1個体、9月に雌雄各1個体を確認した。		写真1
	植生	7月23, 24日	イヨカズラを7箇所計19株、ジュウニヒトエを46箇所計476株、キンランを2箇所計5株確認した。		写真2
海生生物	潮間帯生物	7月18, 19日	植物ではワカメ、サビ亜科など34種、動物ではアマガイなど32種を確認した。		写真3
	海藻草類	7月18, 19日	ワカメやクロメ、サビ亜科など45種を確認した。		
	底生生物	7月18, 19日	ムラサキウニやアカウニなど5種を確認した。		
	スナメリ	7月～9月 (週1回・計13日)	計13回、延べ26頭を確認した。		
	カクメイ科等の貝類	7月30日 ～8月2日	<p>カクメイ科の貝類は確認されなかった。</p> <p>落石の危険性があるため、安全を考慮して、タイプール2箇所のうち1箇所調査を実施した。</p>		

【参考】その他の環境調査

○カラスバト

7月～9月の調査の結果、9月に計画地点で鳴声を確認した。

また、鼻線島および天田島でも9月に姿や鳴声を確認した。(写真4)

○カンムリウミスズメ

7月～9月の調査の結果、8月に延べ4個体(鼻線島西や祝島南東)を確認した。

【環境基準，管理目標値一覧】

項 目		環境基準または管理目標値
大気質	二酸化硫黄	環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり，かつ，1時間値が0.1ppm以下
	二酸化窒素	環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppm～0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下
	浮遊粒子状物質	環境基準：1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり，かつ，1時間値が0.20mg/m ³ 以下
騒 音		管理目標値：85dB 【参考】騒音規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」を準用
振 動		管理目標値：75dB 【参考】振動規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準」を準用
海水の濁り	浮遊物質	管理目標値：バックグラウンド+10mg/L以下
陸域工事排水	水素イオン濃度	管理目標値：5.0以上9.0以下
	浮遊物質	管理目標値：日平均150mg/L以下

【調査写真】

写真1:ハヤブサ	写真2:植生(7月23, 24日)	
		
オス(7月24日)	イヨカズラ	ジュウニヒトエ
		
メス(9月11日)	キンラン	
写真3:海生生物(7月18, 19日)		写真4:カラスバト
		
ワカメ	クロメ	
		
ムラサキウニ	アカウニ	
		(9月27日 天田島)